

「豊後街道(参勤交代道)」

委員 成瀬 保廣

「参勤交代・九州横断徒歩の旅」  
をご存知ですか？

今年で30回目を数え、小中学生たちが元氣よく大分市から熊本市までの豊後街道を踏破します。  
8月18日〜20日にかけて阿蘇市内を通過しますので、皆さまのご声援をよろしくお願いいたします。



参勤交代徒歩の旅



肥後藩参勤交代行程図

参勤交代とは、江戸時代に幕府が日本を治めるため、諸大名に江戸と領国を1年おきに行き来させ、その妻子を江戸に住まわせた制度のことです。大名は大勢のお供を連れて行き来しますので、巨額な費用を負担することになり、藩の財政を圧迫しました。  
肥後藩の参勤交代のメインルートは、阿蘇市を東西に走る「豊後街道」です。豊後街道は、熊本〜大津〜阿蘇を経て、大分の久住〜野津原〜鶴崎港に達し、距離は約122kmあります。鶴崎港からは瀬戸内海航路〜東海道〜江戸となり、約1025kmです。熊本から江戸までの日数は、早くても27日、悪天候になると55日かかったといわれています。参勤交代では人と物が行き交い、各地の文化・経済・情報との交流が盛んになりました。  
豊後街道沿いには杉並木が植え

られ、1里(約4km)ごとに塚の上に榎を植えて目安としており、今でも名残として市内の8カ所(8〜15里)に史跡が伝えられています。また、参勤交代時の宿泊・休憩施設として、阿蘇市内には、的石・内牧・坂梨・笹倉に「御茶屋」がありました。参勤時に御茶屋で昼食休憩、内牧で宿泊、坂梨で昼食休憩、笹倉では休憩のようです。特に的御茶屋跡の間取り・庭園等は、当時のままの様式を残しています。



二重峠の石畳

豊後街道は阿蘇へ入ると、起伏が激しく火山灰土であり、雨が降ると道路の痛みがひどく復旧に手間が掛かっていました。そのため、峠では石畳の道が多くあり、中でも、標高差約190m、距離2kmの「二重峠の石畳」は見事なものです。



豊後街道経路図

また、滝室坂は豊後街道一の難所と伝えられています。こうした石畳は、当時から地域住民が何度も補修等を行って維持されており、年貢とともに相当な負担であったようです。  
近年は、道路網の発達により国道・県道の整備が進み、豊後街道は機能を終え山林中に埋もれていました。しかし、文化庁の補助事業等により歴史の道として整備・復元し、現在は貴重な歴史を伝える文化財として保存されています。  
※「参勤」は江戸で幕府のために1年間勤めること、「交代」は勤めを終えて国へ帰ることです。